

可 見 市

わがまちのまちづくり



可 見 市 長 富 田 成 輝

このたびは、岐阜県都市整備協会設立50周年を迎えられ、誠におめでとうございます。日本社会が大きく変ぼうする中、岐阜県内のまちづくりに対し、多大なるご尽力を賜るとともに、ご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

本市は、昭和40年代以降、名古屋圏のベッドタウンとして、大規模な住宅団地の建設が相次ぎ、人口が急激に増加しました。この住宅団地に若い世代が移住し、教育施設の整備が不可欠となり、当時、圧倒的な予算を投じていた土木費を教育費が上回るほどでした。また、本市は、市民による地域活動にも重点をおき、情報発信やコミュニティを図ることができるよう各地域に、体育館などを併設した公民館を建設しました。現在でも、地域の方々の活動拠点として愛されています。平成14年には、各地区で発信された情報や文化活動をさらに支援するため、可児市文化創造センターがオープンし、多くの市民が文化芸術活動の拠点として利用しています。

一方、まちづくりの手法の一つである土地区画整理事業においては、昭和51年に着手した市役所周辺を始め、現在施行中のもも含め、市街地を中心に、8箇所を整備してきました。これらは、当地区とその周辺地域が、将来の発展を見据え、アクセス道路の整備や健全な市街地形成になるよう投資してきました。結果、当事業により整備した地域は、市民にとって重要な生活拠点として活用されています。このように、土地区画整理事業は、将来の地域経済の発展や雇用の増加につながり、さらには、市民一人一人が、安心安全で生活できる場所を支援する事業であると確信しております。

さて、これまで右肩上がりであった本市の人口は、平成20年を境に減少に転じ、比較的良好であった財政状況も急速な高齢化に伴い、非常に厳しくなっております。このような中、将来にわたり市の活力を維持していかなければなりません。そのために本市では、「参画」と「協働」による市民中心のまちづくりを進める中、市の魅力を最大限引き出すとともに、今後も地域経済の発展、雇用の確保を図れるような施策に対し、戦略的に投資していきたいと考えています。最後になりましたが、今後も岐阜県内各地区の地域特性を生かしたまちづくりに対し、一層のご支援を賜り、貴協会の益々の発展を期待いたします。